

特集

多系統萎縮症の新診断基準とこれからの診療

企画 本誌編集委員会

多系統萎縮症の診断は、2008年に発表された Gilman 分類 second consensus statement を用いて行われてきた。しかしその後の研究の進歩により、正確さや早期診断の感度における課題が明らかになり、2022年に新たな診断基準である The Movement Disorder Society Criteria for the Diagnosis of Multiple System Atrophy が提示された。本特集では Gilman 分類の問題点を総括するとともに、本邦から新診断基準の作成に参画した委員による解説を含め、新診断基準のねらいや使用にあたっての留意点を示す。さらに日常診療や臨床試験における活用法、疾患修飾療法開発の展望について学ぶことを目的とする。